

2013年（平成25年）

ハタハタ情報 No.1

平成25年9月13日発行

中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

—後日にインターネットからもご覧いただけます—↓

マリネット北海道 : <http://www.fishexp.hro.or.jp>

水試調査船北洋丸によるトロール調査（留萌沖）の結果を報告します。

【調査期間】 2013年9月10日～9月11日

【調査海域】 雄冬岬沖の水深200～280mの海域においてトロールを曳網し、ハタハタの採集試験を行いました。4調査点で計147尾（0歳魚を除く）の標本を採集し、体長測定などを実施しました。

- 採集状況は1マイル曳網あたり平均23.7尾で前年を下回る。
- 1歳魚（2012年級）が全体の約84%を占め、魚体は小型傾向。
- 1歳魚の成熟状態は昨年と同程度で進行。

1. ハタハタの分布状況（図1）

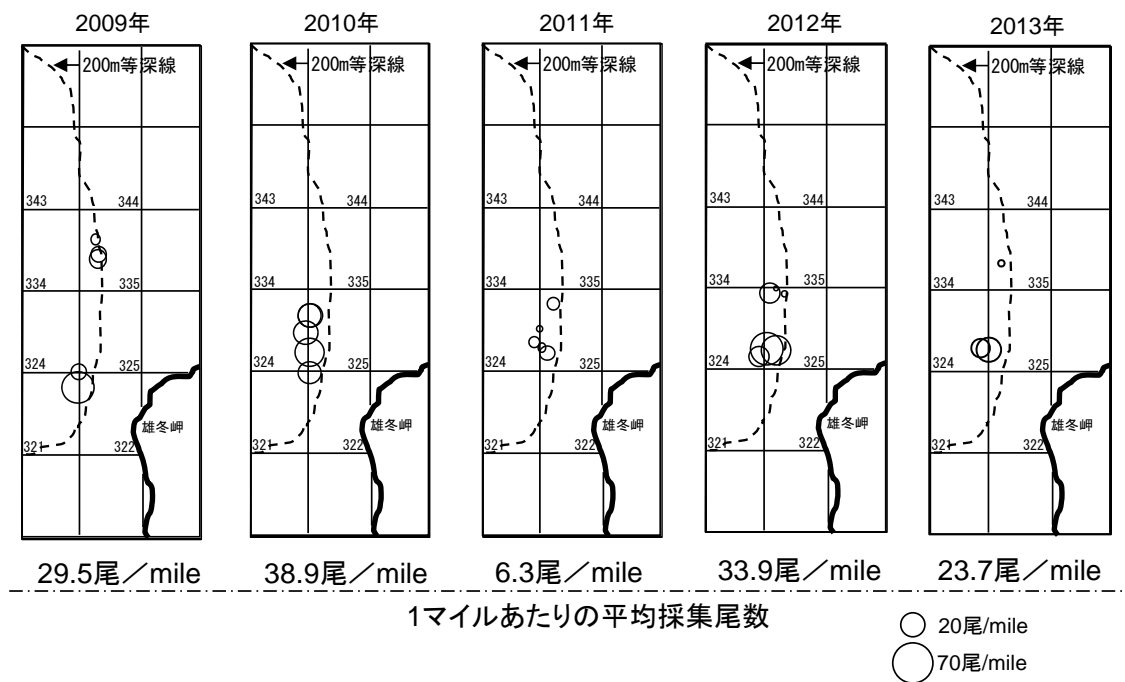


図1 9月トロール調査による採集尾数（注：2009年は中央水試おやしお丸による調査結果。調査時期が今回より2週程度遅い）

ハタハタの平均採集尾数は1マイルあたり23.7尾と昨年を下回り、最近5年間は2番目に低い採集状況となりました。例年の傾向と同様に、水深250m前後の海域で比較的多く採集されました。

2. ハタハタの魚体と年齢 (図2)

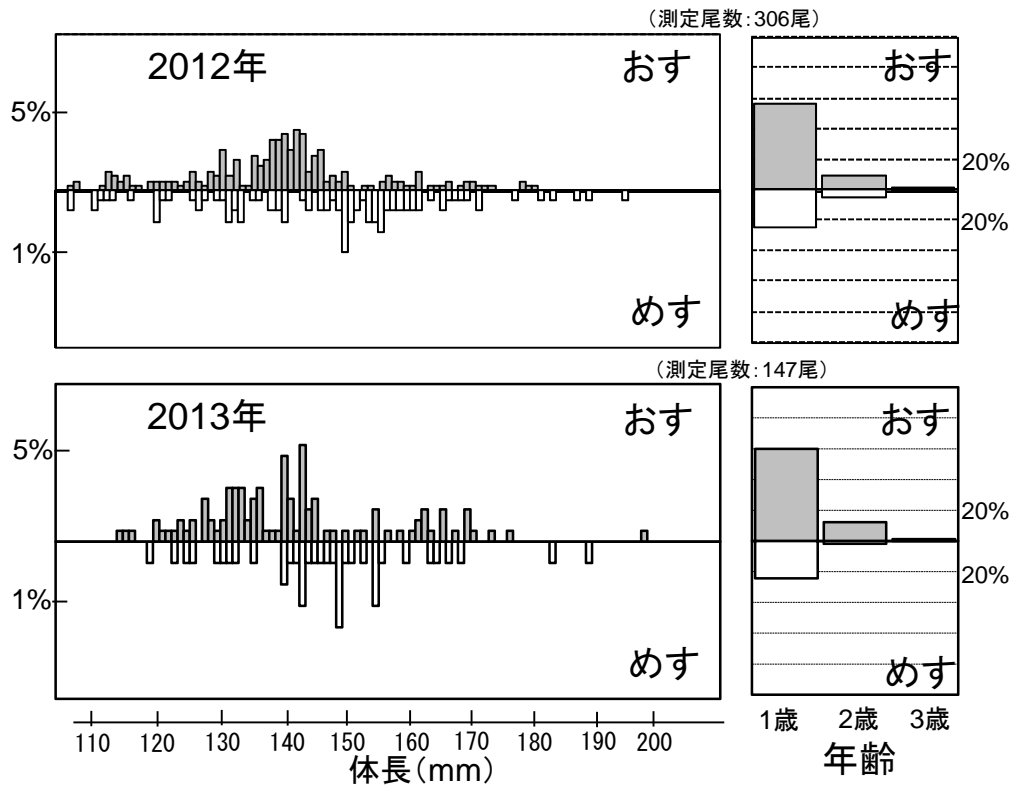


図2 今回の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成
上段図：昨年（2012年）調査 下段図：今回の調査

今回の調査で採集されたハタハタは、雄で体長 120～150mm、雌で 130～160mm の範囲が中心となっており、その体長範囲の大半は今年の新規加入群である 2012 年級群（1 歳魚）で構成されています。1 歳魚の体長は例年に比べ小さめで、これは昨年と同じ傾向でした。1 歳魚の占める割合は雌雄合わせて 84% であり、今漁期に漁獲対象となるハタハタは、今のところ小型魚主体（昨年と同傾向）となる見通しです。

3. 成熟状態 (図3)

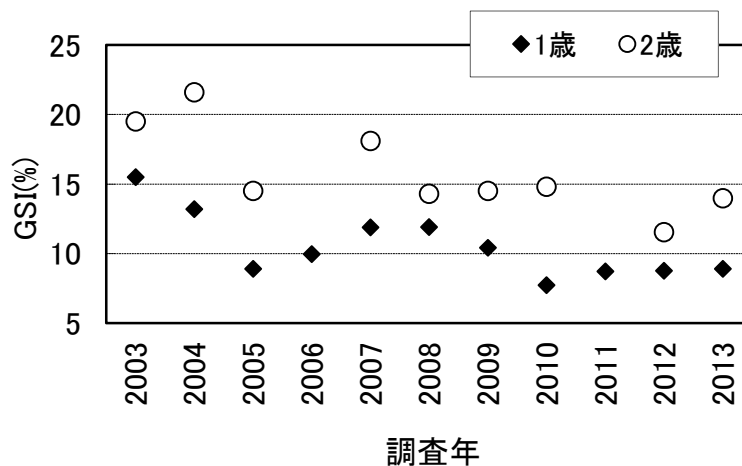


図3 毎年9月下旬のハタハタ雌のGSI (GSI=卵巣重量/内蔵除去重量×100)

ハタハタは成熟状態（生殖巣の発達状態）が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣重量の割合（GSI）は産卵が近づくにつれて大きくなり、沿岸に来遊する頃には40前後の値となります。今回得られた標本のうち成熟状態にある雌個体のGSIに基づき、これまでの調査結果と対比するため9月末時点の値として推定しました。その結果、1歳魚の成熟状態は前年並み、2歳魚については昨年よりは早いものの、例年に比べると遅めで進行していると考えられました。沿岸への来遊時期の見通しについては、次回10月のトロール調査結果に基づきお知らせする予定です。

4. 水温（図4）

今回の調査の中で行ったCTDによる雄冬沖（321漁区北側～325漁区南側の範囲）の表層から底層にかけての水温測定結果を、過去5年の平均値と併せて示しました。

水深50～80m付近では過去5年値と比べかなり高め水温となっていますが、100m以深では例年並みかやや低め水温となっています。今時期にハタハタが分布している200m以深の底層付近では1～3℃と、例年の傾向と大きな違いはありませんでした。

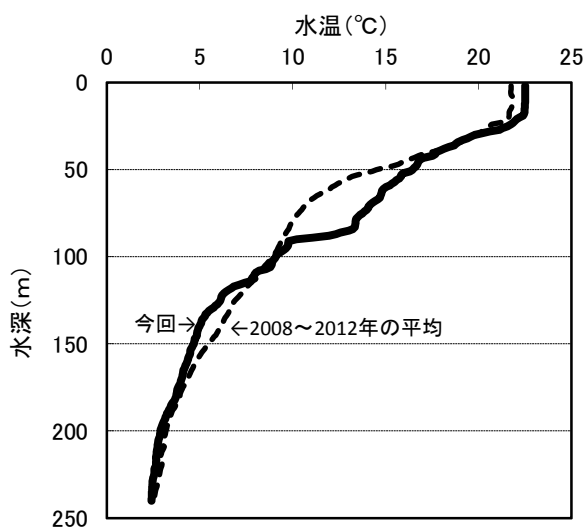


図4 雄冬沖の水温分布

5. 今後の調査など

次回の北洋丸によるトロール調査は、10月中～下旬に雄冬沖のハタハタ分布域を含む海域で実施する予定です。付近の海域で操業中の漁業者の皆様には何卒ご配慮いただきますよう、よろしく願いいたします。また、漁期中には漁獲物標本の採集調査も実施いたしますので、重ねてご協力をお願いいたします。